



窓ガラスの結露対策

冬場に発生しやすい結露。原因は、空気中の水蒸気です。身近なところでは冷たいコップにつく水滴と同じ原理で、暖かい空気が冷たいものに触れ、水滴に変化したものが結露です。室内外の温度差が激しい冬の窓ガラスは、より結露が発生しやすい場所といえます。窓の結露はカーテンに水滴が付いてシミになりやすく、窓の下の壁などにも湿気によりカビが発生し、壁紙がめくれたり、はがれたり、ひどいものでは壁土が崩れたりします。放置しておくと、窓枠やサッシのゴムにカビが発生し、アレルギーの原因ともなります。また、窓から冷気が伝わり、暖房効率も悪くなります。市販の結露対策グッズを使って、快適な住まいに改善しましょう。

シート・フィルムで結露対策



結露対策で有効なのが、窓ガラスの表面温度の低下を抑えること。空気層を含んだシートを窓に密着させることで結露を抑制し、暖房の効きがよくなります。断熱シートを貼ったのと貼らないのでは結露の発生や室内の暖かさが全然違います。窓の断熱性を高めることで結露を改善し、その結果、暖房の設定温度を必

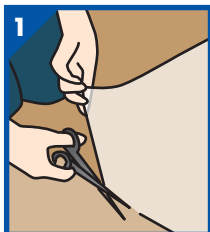
要以上に高くしなくてもすむので、省エネにつながります。

透明度の高いシート・フィルムを選べば、お部屋が暗くなりません。使用するお部屋に合ったタイプのものを選びましょう。



断熱シートは、窓ガラスとお部屋の間にシートを貼り空気層をつくることで、熱の移動を防ぎ、貼るだけで暖房効率をアップさせます。発熱シートは、窓に貼るだけで、特殊発熱フィルムが太陽光を吸収して発熱します。

●水で貼る 手軽で、女性一人でもカンタンに貼ることができます。



窓のサイズに合わせて、ハサミやカッターなどでシートを切りましょう。

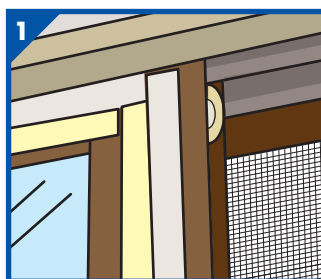


シートを圧着させるために、窓ガラスに霧吹きで水をスプレーします。

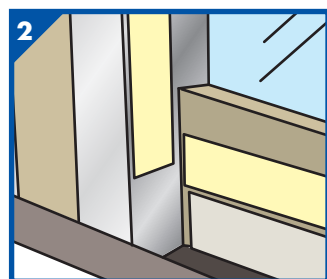


シートを貼って位置が確定したら、雑巾などで空気や水を押し出します。

●ドライヤーで貼る 透明度が高く見栄えの良い仕上がります。



引き違い窓の手前側サッシに、両面テープと、カッター傷防止のためマスキングテープを。



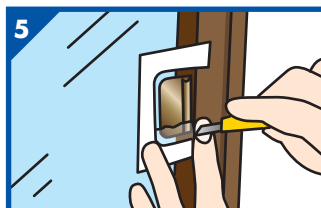
サッシが前面に飛び出している部分は、側面にテープを貼り付けていきます。



両面テープを指で押さえて十分に圧着させ、はくり紙をはずしてフィルムを上下を固定します。



すき間からシリカゲルを入れ、両サイドのフィルムも貼り付けます。余ったらカットします。



窓の施錠ができるように付属のプラスチック部品を貼り、カッターでフィルムをカットします。

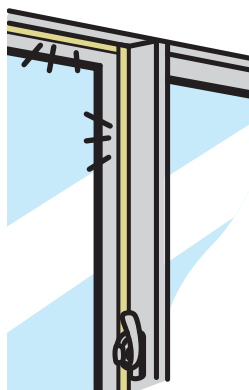


ドライヤーの熱風をあてて、フィルムのしわを伸ばします。ドライヤーはフィルムから5cm以上離しましょう。

サッシ枠の結露対策

窓のサッシ枠からも熱は逃げています。窓も開いていないのにカーテンの隙間からの冷気がヒヤッと感じたことはありませんか？断熱テープや、すきまに貼るテープを活用して、冷気の侵入をシャットアウトしましょう。

また、窓枠やガラスに吸水テープを貼っておくと、窓周りがびしょ濡れになってしまうのを防げます。



▲結露吸水テープ

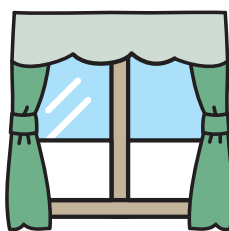
結露で起こった水滴を吸収し、床やサッシのカビを防ぐ！吸水性の高い特殊不織布採用で、格段の吸水パワーを発揮します。凹凸ガラスやスリガラスにも対応。水栓トイレのタンクに、スチール製玄関ドアに、幅広い用途に対応できます。

発泡ウレタンフォームを粘着加工したテープです。クーラー取付部、ドア、窓回りのすきまに使用します。室温の確保と暖房器具の効率アップ！きれいに貼れるタイプ。

▼すきま用テープ



その他の冷氣&結露対策



ガラス面に貼るだけで窓から逃げる熱を防ぎ、結露の水だれを吸水してくれるパネルボード状のグッズもあります。

断熱ボード▶

好きな大きさにカットして使えます。発泡層の窓側には断熱機能、部屋側には結露吸水機能があります。吸水した結露水は、ボード表面の特殊加工したカット面から蒸発します。全面粘着式だから、裏面シートをはがすだけで簡単に貼れます。



こまめに拭き取るのが一番という方は、水滴をぐんぐん吸い取ってくれるクロスなどを活用するとよいでしょう。水滴がたまるタイプのワイパーを使えば、拭きあとのムラもなく、何度もクロスを絞ったりする必要が

なく便利です。



◀水滴拭き取りクロス

高性能吸水クロスです。洗面所やキッチンなど、水まわりのスペースのお手入れや、冬季の結露拭きに最適です。



結露の発生しやすい場所

- 金属製の窓枠・玄関ドア
- 外壁・天井・床
- ソファやクローゼット・家具の裏側
- 壁内・床下・畳裏
- 押し入れ

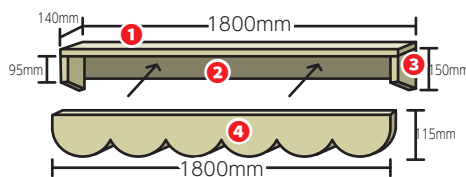
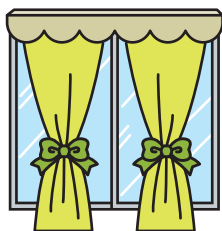
冷えやすく換気が行き届かないところが結露の発生しやすい場所です。温度と湿度の調節に注意し、結露が発生したらそのまま放置しないようにしましょう。

カーテンを正しく活用しよう

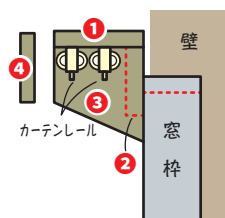
カーテンを正しく活用すればそれだけでもかなり断熱効果に違いがでます。結露に悩んだら、まずは、我が家のカーテン環境を見直してみましょう。

自分で手づくりできる【カーテンボックス】

カーテンボックスがあると外気の侵入や室内の熱の流失を防ぎます。また、カーテンは必ず二重にします。掃き出し窓の場合、カーテンの長さは床にたれ下がるくらいにしましょう。



それぞれカットした木材を図のように組み立てていきます。※ボックスの長さは、実際の窓枠を測って決めてください。



窓枠および周辺が木質であれば取付可能です。また、カーテンレールがすでについている場合は、②の背板は必要ありません。

※緑の文字は、デジオで取り扱っている商品です。

※掲載商品は予告なく変更する場合がございます。[禁複製]



アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ 会員募集中!



アヤカ
ポイントも
貯まる!

Point
ポイント
カード
機能

クーポン

最新チラシ

店舗検索

アヤハディオ
ネットショッピング

アプリ
ダウンロードは
こちら▶▶



Download on the
App Store



ANDROID APP ON
Google play

